

2026 年 9 月 11 日

東京薬科大学

トランスコスモス株式会社

薬学教育の新時代へ 東京薬科大学とトランスコスモス、AI 対話学習基盤の共同開発を開始

薬学教育の臨床教育における基礎学修・患者応対・継続学習支援の実装を推進

学校法人東京薬科大学（所在地：東京都八王子市、学長：三巻祥浩、以下「東京薬科大学」）とトランスコスモス株式会社（本社：東京都豊島区、代表取締役共同社長：牟田正明、神谷健志、以下「トランスコスモス」）は、トランスコスモスが提供する AI 対話トレーニングツール「trans-AI Tutor」を薬学生・薬剤師向けに最適化し、薬学教育に効果的・実践的に活用する共同取り組みを開始しました。東京薬科大学とトランスコスモスの知見を掛け合わせることで、実務実習前の臨床学習支援を起点に、高度で複雑な臨床症例やインシデントへの対応、継続的な情報取得・提供支援までを視野に入れ、薬学生・薬剤師が実践的な学びを効果的に深められる学修環境の構築と医療現場におけるノウハウの標準化を目指します。2026 年 11 月のリリースに向け、東京薬科大学 4 年次生を対象としたパイロット運用の準備を本格化します。

【ポイント】

- 実務実習前の実践的臨床能力の養成:患者ペルソナを柔軟に設定できるロールプレイと、教員監修によるモデル・コア・カリキュラム準拠のシナリオにより、実践的臨床体験を反復練習できる環境の整備
- 複雑・困難事例への応用:高度な臨床症例やインシデントへの対応、多様な顧客ペルソナとの対話を通じ、実践的な応対力を修得できる学修機会の提供
- 学修状況の可視化とフィードバック設計:コンタクトセンター運営で培った応対品質管理とフィードバックの知見を AI 評価軸に組み込み、学修状況の可視化と即時フィードバックを実現
- 卒後の継続学習への展開:法令改正等の最新情報を提供する機能を順次実装し、薬学生の基礎学修から卒後教育・継続学習まで、継続的な学びのための基盤を整備

【概要】

本取り組みは、薬剤師教育と医療現場を AI でつなぐ統合学修基盤の実装を目指すものです。2040 年に向けて薬剤師には対人業務への一層のシフトが求められる一方、学生には実務実習前の実践的な臨床能力の養成、現場の薬剤師には複雑な症例やインシデントへの対応、法令改正等への継続的な対応が求められています。こうした中、東京薬科大学の教育知見と、トランスコスモスがコンタクトセンター運営で培ってきた顧客応対の品質管理・フィードバック設計の知見を掛け合わせることで、教員、学生同士のロールプレイだけでは十分に提供しきれなかった学修機会を拡張し、医療現場でのノウハウの標準化を図ります。

具体的には、患者ペルソナを年齢・性格・病歴まで柔軟に設定できるロールプレイを通じて、情報収集や情報提供など、実務実習前に必要な基礎的な臨床対応を繰り返し学修できる環境を整備します。加えて、より高度で複雑

な臨床症例への対応やインシデントへの対応も学べる機能、学修状況の可視化と即時フィードバック機能、将来的な法令改正等の情報取得支援機能の実装検証も進めます。これにより、学生は時間や人手の制限からの影響が減り学生個々に応じた練習量を確保でき、教員は基礎反復の支援にとどまらない個別指導や教材設計など、より教育効果の高い指導に注力しやすくなります。中長期的には、基礎学修から卒後の継続学習までを一貫して支える基盤としての展開を視野に入れています。

東京薬科大学とトランスコスモスは、教育現場での実装と検証を通じて、薬学教育をより効果的かつ実践的なものとするとともに、日々変化する医療環境に対応できる次世代薬剤師の育成に貢献してまいります。

【代表コメント】

トランスコスモス株式会社 上席執行役員 高山智司

「本取り組みでは、東京薬科大学様の教育知見と、当社がコンタクトセンター運営で培ってきた接客・応対品質管理の知見を掛け合わせることで、薬学教育の現場に即した学習支援のあり方を具体化してまいります。人手だけでは十分にカバーしきれない学習機会やノウハウを、教育現場で活用可能なかたちに落とし込み、薬学教育の高度化に貢献してまいります。」

東京薬科大学 学長 三巻祥浩

「実務実習や就職後に直面する複雑・困難事例への対応から、最新の法令情報等の継続的な修得までを一つの基盤で支えていく今回の取り組みは、薬学教育における学修機会の拡張という点で大きな意義があります。実務家教員監修のシナリオと、AI による反復練習・自動評価の仕組みを通じて、これまでの事前実習を効果的に実践し、臨床実践に即した学びを教育現場で具体化していきたいと考えています。」

■ 「trans-AI Tutor」開発の背景とトランスコスモス社内での利用実績

「trans-AI Tutor」は、トランスコスモスがコンタクトセンター運営で抱えていた、オペレーター育成時の業務負担と応対品質のばらつきを解消するために自社開発した音声対話型生成 AI ロールプレイングサービスです。従来のロールプレイは、新人同士では学習効果に限界があり、既存オペレーターや管理者が顧客役を担う場合も、現場負荷や追加工数が発生する点が課題でした。

【社内利用実績（参考値）】

社内コンタクトセンター業務では、本ツール導入により、研修中のオペレーター1名あたりのロープレ回数が約7倍に増加し、管理者工数換算で2,945時間相当の研修工数を代替した事例があります。加えて、研修期間50%短縮、生産性129%向上、成約数305件増などの成果も確認しており、これらの実績と運用知見を薬学教育向けに最適化して展開するのが本取り組みです。